国際日本文化研究センター教授
歴史学者

磯田道史氏



令和８年度市町村トップセミナー

歴史に学ぶ防災
―未来に向けて生き残るまちを　どうつくるか―

日　時

2026年
10月13日（火）
14：00～16：00

シティプラザ大阪
２階「旬」
大阪市中央区本町橋２-31

申込締切

2026年
９月25日（金）
所定の方法にてお申込みください

主催：公益財団法人大阪府市町村振興協会
TEL：06-6920-4565　MAIL：center-tr@masse.or.jp

概　　要

南海トラフ地震や直下型地震など、大規模災害の発生が近い将来に想定されています。いつか必ず起こる未曾有の災禍に備え、「未来に向けて生き残るまち」をいかに築いていくかが、いま大きな課題となっています。

本セミナーでは、講師に、災害に関する史料を研究し、現代の災害との比較から類似点を調査・有効な対策を探究されている、国際日本文化研究センター教授・歴史学者の磯田道史氏をお迎えし、過去の災害事例を読み解きながら、災害が起きる前にできる対策や、歴史から何を学ぶべきかについて、ご講演いただきます。

「歴史は韻を踏む。新しい失敗はなかなかない。人は過去と同じパターンで失敗する―。」最新技術によるデータ分析だけでなく、過去にどのような災害が起こり、どの程度の被害が生じたのかという歴史的データにも今一度目を向けて、防災・減災のあり方を多角的に考えてみませんか。

プロフィール

一九七〇年岡山市生まれ。
慶應義塾大学大学院卒。博士（史学）。
茨城大学助教授、静岡文化芸術大学教授などを経て、
現在、国際日本文化研究センター教授。

著書に『武士の家計簿』（新潮ドキュメント賞受賞、2010年映画化）、『近世大名家臣団の社会構造』、『龍馬史』、『日本人の叡智』、『日本史を暴く』、『天災から日本史を読みなおす』、『感染症の日本史』、『徳川がつくった先進国日本』、『「司馬遼太郎」で学ぶ日本史』など多数。『無私の日本人』（文春文庫）の一編「穀田屋十三郎」が「殿、利息でござる！」として映画化された。小学5年の社会教科書（日本文教出版）を執筆。
岡山城天守閣の展示を刷新、入場者を増やして大きな経済効果を生み、山陽新聞賞。
大河ドラマ「西郷どん」では時代考証を行い俳優としても出演。
伊丹十三賞・日本雑学大賞・日本エッセイストクラブ賞を受賞。
京都の二条城メタバースの制作など多方面の活動を行う。忍者の学術研究でも知られ、甲賀市の忍者ファインダーズ団長でもある。
現在、毎日新聞書評委員。読売新聞の歴史コラムの執筆と挿絵を担当。NHKのBS歴史番組「英雄たちの選択」では司会をつとめている。
近著は『豊臣兄弟　天下を獲った処世術』（文春新書）、『国際日本研究の知をひらく：接合域と多面性』（国際日本研究叢書）。